

エベネゼル緊急基金



EBENEZER
OPERATION EXODUS

揺れ動く時代 における希望



わたしが彼らから離れず、彼らを幸福にするため、彼らとどこしえの契約を結ぶ。わたしは、彼らがわたしから去らないようにわたしに対する恐れを彼らの心に与える。

わたしは彼らを幸福にして、彼らをわたしの喜びとし、真実をもって、心を尽くし思いを尽くして、彼らをこの国に植えよう。」 エレミヤ書 32章40～41節

イスラエルの地へのユダヤ人の帰還を援助するキリスト教団体

揺れ動く時代における希望

国際部



ジャン・ルカ・モロッティ
国際理事会

表紙の写真:6月に、フランス、イギリス、オランダ、スペイン、オーストラリアから110人の新しいオリム(移住者)がイスラエルに到着しました。

これは私たちが直接関わった出来事ではありませんが、これら大切なオリムのアリヤー(帰還)を共に喜び祝うことができます。

クレジット:Sivan Shachor, GPO(イスラエル政府報道局) 移民・統合省の厚意による。

6月12日にエルサレムに到着したとき、私たちはまだこれから起こる出来事を知りませんでした。数時間後、夜中にサイレンの音で目を覚まされました。そのとき初めて、イスラエルがイランに対して行動を起こしたことを知ったのです。

妻と私はすぐに建物の防空壕に入りました。私たちの部屋から5階下でした。そこには子どもたちや高齢者、障害のある人々、そして普通の人々が、警報解除を待ち、自分の部屋に戻ろうとしていました。私たちはすぐに隣人たちと知り合い、やがて「いつ戦争が終わるのか分からない」という緊張と不安に満ちた、絶えず警戒を強いられる厳しい現実を体験することになりました。

ここで本当に光を放ったのは、年配の人々の驚くべき強さでした! 彼らは「イスラエルの神が私たちを守ってください」という信仰によって若い世代を慰めることができたのです。その姿は実に力強い証しでした。そうです!まさにその瞬間、私たちは世界中の何百万人もの人々が「エルサレムの平和のために祈っている」(詩篇122篇)の祈りの力を肌で感じたのです。

さらに、その後に続く出来事が、アメリカ合衆国の関与や国際的混乱など、世界的な大きな変化をもたらすことになるとは予想していませんでした。これはまさに、古代のヘブル人の預言者たちがかつて見て語ったことが、今日

私たちの目の前で成就しつつあるのです。

それにもかかわらず、あの決定的な時から数週間、数か月の間、イスラエルの私たちのチームは使命を果たし続けました。ハイファ・ハウスやベイト・ヨナ・アシュドッドの二つの施設で、アリヤーを果たした人々に宿泊とケアを提供し、戦時下であってもオリムを助けるためにたゆまぬ働きを続けました。

では、混乱や災害に直面しても、私たちの働きはどのように続けることができたのでしょうか。揺れ動く時代に、どこに希望を見いだすことができるのでしょうか。

私の心は、6月17日にイスラエル法人(EOE IL)の年次総会で主が私に語らせてくださったみことばに立ち返ります。それはエレミヤ書32章です。この箇所背景は、バビロン捕囚の前にネブカドネツアル王によってユダ王国が包囲されてから約1年が経ったころの、エルサレム包囲の状況です。

なおも牢に閉じ込められていたエレミヤは、そこで驚くべき主のこことばを受けました。それは彼の心を震わせるようなみことばでした。

「この預言の中で、神はご自分の民を見捨てることは決してないと宣言されました。たとえ彼らがバビロンに捕らえ移されるとしても、神は彼らを再びこの地に戻し、祝福し、植え直す」と約束されたのです。



© Sivan Shachor / GPO



わたしが彼らから離れず、彼らを幸福にするため、彼らととしえの契約を結ぶ。わたしは、彼らがわたしから去らないようにわたしに対する恐れを彼らの心に与える。

わたしは彼らを幸福にして、彼らをわたしの喜びとし、真実をもって、心を尽くし思いを尽くして、彼らをこの国に植えよう。」

― エレミヤ書32章40～41節（新改訳2017）

この神の約束は、エレミヤにとっても、そして捕囚に連れて行かれる人々にとっても「希望のしるし」でした。状況がどんなに暗く見えても、神の契約とその真実は揺らぐことがないということです。

私たちもまた、この不安定な時代にあっても同じ約束に立つことができます。神はイスラエルの民を再び集め、この地にしっかりと植えると約束されました。そしてそのみことばは、今まさに私たちの目の前で現実となっています。

ですから、どんな「揺れ動き」の中にあっても、私たちは希望を失うことはありません。主の契約は永遠であり、主はご自分の民を決して見放されないからです。」

神は、エレミヤにアナトテにある土地を買うように願われました。それは、エレミヤは、アナトテの畑を買う権利を持っていたからでした。バビロンへの捕囚が間近に迫っている状況で、



これは不可能に思えました。しかし神は彼に将来を示され、その畑の持ち主を直接彼のもとに送られたのです。6～7節に登場するこの人物はハナメル（「神は恵み深い」という意味）でした。そこでエレミヤは従い、証人を立て、アナトテ（「祈りへの答え」という意味）に行き、銀17シェケルを量って代金を払いました（9節）。

聖霊は決して無駄な言葉を語られません。実際、聖書における「17」という数には重要な意味があります。「17」は「勝利」を表します。神の預言のことばが、これまで私たちを通して成し遂げられてきたことの中に見られるからです。

エレミヤ書32章17節で預言者はこう告白します。

「ああ、神、主よ。ご覧ください、あなたは大きいなる力と伸ばされた御腕をもって天と地を造られました。あなたにとって不可能なことは一つもありません。」

これは不可能に直面した中での信仰の告白でした。ここまでで、これはエレミヤの17番目の祈りでもあります。さらに、6月17日というあらかじめ定められた日に、主は私たちを集め、「揺れ動く時代における希望」を宣言させ、エレミヤに語られた主のことばを読むことを導かれました。

1991年にエベネゼルが設立されてから、2007年にイスラエルでの働きが登録されるまで17年が経ちました。エルサレムで小さな証しとして始まった法人（アムタ）が、やがて新しい人々を加え、二つの家を持ち、オリムのクリター（移住定着支援）を助けるまでに大きく広がるとは、当初は誰も思いませんでした。もしこの地でここまで拡大が見られたなら、私たちは確信をもって、先に労苦してくださった人々の実をいま共に刈り取っているのです。

どうかイスラエルの神、主が、エレミヤのように「揺れ動く時代における希望」を宣言する者とならせてくださいますように。

用語解説

アリヤー(Aliyah):

ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関 (Jewish Agency):

ユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):

イスラエルに帰還するユダヤ人

クリタ (Klitah)

吸収を意味し、イスラエルに到着したオリムたちの生活を確立させること。ヘブライ語の学び、就職、住居、学校、IDFへの従事など。

下の写真: ミケラとハンナが防空壕を掃除している様子

オルガの家族への希望

モルドバ



パベル
ナショナル・コーディネーター

「見よ。わたしは彼らを北の国から連れ出し、地の果てから彼らを集める。その中には、目の見えないものも足のなえた者もいる…」

一 エレミヤ書31章8節

オルガの家族は2021年にアリヤーを果たしました。領事館での審査は順調に通過し、ユダヤ人の血統を証明する書類にも問題はありませんでした。しかし、モルドバ当局から出国許可を得ることは非常に困難でした。オルガはよく失望した声で私に電話をかけ、「もうこれ以上、この大量の書類と格闘する力がありません」と言っていました。振り返ると、エベネゼルの経済的支援と絶え間ない励ましがなければ、彼らはモルドバを出ることはできなかったと思います。

この家族は沿ドニエストル地方リブニツァ市の出身で、とても劣悪な環境で暮らしていました。オルガは大家族の出身で、すでに彼女の多くの兄弟姉妹が私たちの助けを受けてアリヤーをしていました。彼女は二人の息子（20歳と16歳）と14歳の娘エヴェリーナを育てるシングルマザーです。エヴェリーナは脳性麻痺を抱えていました。彼らがアリヤーを決心したとき、長男はすでに約2年間イスラエルに住んでいました。最終的に彼らを動かしたのは、エヴェリーナの病状でした。

診断の結果、エヴェリーナは歩くことができず、学校には通わずに教師が自宅に来て授業をしていました。誰もが彼女を「よくできる生徒だ」と褒めていました。しかし成長するにつれて足の痛みが増し、医師たちは「これからもっと悪化する」と告げましたが、モルドバでは何の助けも得られませんでした。

長い準備期間を経て、彼らはついにアリヤーを果たしました。エベネゼルは空港までの移送を支援しました。イスラエルに定住した後も、オルガは何度も私に電話や手紙で近況を知らせてくれました。1年後、オルガはエヴェリーナが足の手術を受けたと伝えてくれました。最近再び便りがあり、長男に孫が生まれ、次男もイスラエル社会に良く溶け込んでいるとのことでした。そして何よりも私を喜ばせたのは、エヴェリーナが歩き始めたという知らせでした！

ご自身のことばに真実であられる主に栄光あれ！主はご自分の民を、その状態にかかわらず連れ出すと約束されました（エレミヤ31章8節）。そしてイスラエルの地で必要のすべてをもって祝福してくださるのです。

写真上：イスラエルでのエヴェリーナ。

写真左下：空港でのオルガ、次男、エヴェリーナ。

写真右下：イスラエルでのオルガの孫。



多くの中の一人

これは、恐ろしい戦争初期の日々を生き延び、敵の占領から逃れることができた多くの家族のうちの一つの物語です。

私たちはヴィタリー（仮名）に会いました。私たちが「今こそ、イスラエルの神の声を聞き、神の御心とあなたの夢を果たし、シオンに帰るときです」と伝え、彼は真剣に耳を傾けました。その瞳には痛みがありました。私たちが「これはイスラエルを愛する人々からの贈り物です」と言って食糧パッケージを手渡すと、彼は静かに「これは奇跡です」と言いました。彼は少し恥ずかしそうに、「自分と母の帰りの交通費として60フリヴニャ（ごくわずかな額）をいただけませんか」と尋ねてきました。私は「残りの食糧を配ってから助けます」と答え、二人は辛抱強く待ちました。その後、私は戻ってきて、彼らが求めた以上の額を渡しました。ヴィタリーは「ありがとう。いつか必ず返します。今は母の年金で暮らしています」と言いました。二人が難民であることを確認したとき、私は思わず二人を抱きしめたい衝動に駆られました。

私は「アリヤーをする計画はありますか」と尋ねましたが、ヴィタリーは「男性はウクライナを出国できないので不可能です」と答えました。私は彼を励ました。「イスラエルの神はすでにあなたを助けておられます。ここまで導かれたのなら、これからも導いてくださいますよ。」さらに私は、視力が悪化していた

ため「障害者認定を受けられるかもしれないから、医師に診てもらいなさい」と勧めました。

彼らは戦争が始まった時マリウポリにいました。ヴィタリーは大学の講師になったばかりでした。ある朝、同僚に「早く帰れ」と言われ、外に出ると街はパニックに陥っていました。彼らは地下室に隠れ、食料も水も電気もない中で砲撃を生き延びました。敵兵が到着したとき、間一髪で脱出しました。親切な老人が畑を抜け、検問所を越える手助けをしてくれました。その道中で、彼らは多くの苦難を体験し、目の前で命を奪われる人々を見ました。

ヴィタリーの視力は著しく悪化しました。しかし、現在は医師の管理下にあり、障害者認定を受けられる可能性があり、それが叶えばイスラエルに渡航できるようになります。

ウクライナ



ヤニャ
ウクライナ・チーム

写真上・下：人道支援物資を配布するチーム。



アメリカが呼びかけ に応える

U.S.A.



ジョン・プロッサー
出エジプト作戦USA会長

彼らは、すべての国々から、あなたがたの同胞をみな、【主】への贈り物として、馬、車、かご、騾馬、らくだに乘せて、わたしの聖なる山、エルサレムに連れて来る」と【主】は仰せられる。「それはちょうど、イスラエル人がささげ物をきよい器に入れて【主】の宮に携えて来るのと同じである。

イザヤ書66章20節

アメリカのユダヤ人たちが、イスラエルの地への帰還という神の預言的な呼びかけに応えています。かつて多くの人にとって遠い希望にすぎなかったアリヤーが、今や現実となりつつあります。今年、私たちのミニストリーは、昨年同時期の2倍の額をオリム支援のために献げました。

私たちはすでにイスラエルにいて、正式なアリヤーを準備している何百人もの人々を助けています。支援プログラムを通して、要件を満たし市民権を認められた人々を援助し、彼らがイスラエルにとどまり、根を下ろし、その賜物をこの地に投資できるようにしています。

主は現代の出エジプトを通して、ご自分の栄光を現しておられます。ご自分の民を集め、力を示し、敵を沈黙させておられるのです。聖書はこう宣言しています。

「【主】よ、あなたの右の手は力に輝き主よ、

あなたの右の手は敵を打ち砕く。」出エジプト記15章6節

私たちは今、自分たちの目の前で神の約束の成就を見えています。神の民の再集結は、単なる歴史的な出来事ではなく、現代の奇跡なのです。

ある家族の物語は、神の民の心にある「帰還への願い」を象徴しています。

ステイシー一家はこう語ります。

「私たちはいつも、アリヤーを理想として心に抱いてきました。しかし、人生にはさまざまな妨げがありました。2023年10月7日の出来事は、私たちへの目覚ましのようなものでした。今こそ、ユダヤ人の民、そして私たちの先祖の地と深く結ばれていることを実感しています。代々、私たちの先祖は故郷に帰ることを切望してきました。今日、私たちはユダヤ人の政府のもとに住む祝福を受けています。そして、心からここが私たちの居場所だと分かっています。」

主への従順のささげ物として、私たちにとってアリヤーを準備している一人ひとりのオレ（男性帰還者）、オラー（女性帰還者）、またその家族のためにとりなし、祝福し、ともに歩むことは喜びであり責任です。信仰と目的において一致し、投資し、主と共にアリヤーの奇跡に深く関わっていきましょう。それは、イスラエルへの神の永遠の契約を現すものだからです。

右：イスラエルにいる
ステイシー一家



国際理事会のために祈ってください



祈り

私はアベ・トマス・ウーメンです。インド南部のコーチ出身です。

妻ディーパとは23年間連れ添い、主に献身してフルタイムで宣教に仕えている娘、ジョアン・グレースが与えられています。私たち家族は22年間、エベネゼルの一員として仕える特権に大いに祝福されてきました。この素晴らしい働きに関わる恵みを与えてくださった神に、心から感謝しています。私は国際理事会の一員として10年間仕えることができたことをヘリクダッて、また光栄に思っています。そしてディーパはインドでの働きを調整しています。私たちは過去12年間、ベネイ・メナシェのアリヤーを助け、支えてきました。さらに、私たちはインドで牧師としても仕えており、福音を宣べ伝え、教会を建て上げ、キリストのからだにイスラエルに対する神のご計画に立つことを教えています。

どうか祈ってください：

- ✓ アリヤーの働きのために仕えるアベとディーパのために。
- ✓ 教会での彼らの働きのために。

私はニック・コーツ、イギリス出身です。

シンガポール出身の妻ロレインとはもうすぐ42年連れ添い、3人の既婚の子どもと4人の孫がいます。私は1992年、香港で銀行HSBCに勤務していた時に信仰を持ちました。息子の学校のプールでバプテスマを受けました。33年間HSBCに勤め、さまざまな役職を務めました。2015年からエベネゼルの一員となり、現在は英国理事会の議長として、また国際理事会で英国を代表し、財務運営グループの議長を務めるという光栄な立場を与えられています。

英国の為に祈ってってください：

- ✓ 主がなさっておられること、語っておられることを、地方・国家の指導者たちがはっきりと見極め、ためらうことなく従うように。
- ✓ 次世代が起こされるように。祈りのパートナー、スタッフ、地域代表、ボランティア、理事として献身する品性ある男女が立ち上がるように。



アベ・ウーメン
&
ニック・コーツ
国際理事会メンバー

Special Israel Tour

SEE BIBLICAL PROPHECY BEING FULFILLED

19-27 January 2026

50%
DISCOUNT FOR
PASTORS

→ ebenezer-oe.org/events

New Children's story available!
www.ebenezer-oe.org/children



Prefer to listen? Our bulletin is now available in audio on our website.



御翼の下のハイファ

イスラエル



マルクス &
ラヘル・アッカーマン
ハイファハウス責任者

5月、スイスから来たプロの職人グループが3回目の訪問としてハイファ・ハウスに来てくれました。彼らの任務の一つは、家の西側にある老朽化したフェンスを取り替えることでした。

これにはかなりの準備が必要で、資材の調達や作業日ごとの詳細な計画作りが欠かせませんでした。彼らは大きな喜びと熱意をもって取り組み、10日間の滞在を終えた後に残された成果は本当に素晴らしいものでした。

ハイファ・ハウスのオープンから、もうすぐ6年になります。始まりを振り返り、今日まで主が導き、支えてくださったことを思うと、ただただ驚きで胸がいっぱいになります。これは主がエベネゼルの家族に与えてくださった開拓的なプロジェクトでした。神の真実と恵み、そして多くの人々の継続的な祈りと実際の献身のおかげで、これまでに600人のオリムを迎え入れ、

最初の住まいを提供することができました。

最近のイランとの戦争の間、私たちはここハイファで頻繁にロケット警報に直面しましたが、家の中に防空壕があることを心から感謝しています。警報のたびに、私たちはオリムや近所の家族、また私たちが運営している別のアパートの住人と一緒にそこに集まります。そのような時、ひとりではない、一緒にこの状況を通っているという感覚が非常に強く、互いの心をより近く結びつけてくれます

現実的な脅威があるにもかかわらず、この家の中では神の超自然的な平安を経験しています。私たちは皆疲れており、それぞれ多くのことを抱えています。神の完全なタイミングに驚かされています。家の周囲の建設工事がちょうど良いタイミングで完成し、それが今は安全感を大きく高めているのです。

今は決して容易な時ではありません。特にオリムにとってそうです。アリヤーの手続きは一層困難になり、役所や店舗は短縮営業か閉鎖され、移動も制限され危険を伴います。私たちは一日一日をそのまま受け止め、忍耐と信頼をもって備え、すべての挑戦を神の助けによって乗り越えようとしています。

イスラエルの神、ユダの獅子が共におられるという揺るぎない確信のうちに憩うことができる——これはなんと大きな賜物でしょうか。



写真
上:ハイファハウスの屋上にて
(左がマルクス)、スイスからのチームと。
左:ハイファハウスの新しいフェンスを建設



Operation Exodus

Ebenezer Operation Exodus
International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org



エベネゼル緊急

〒005-0006札幌市南区澄川6条3丁目
2-4-302(岡田方)
Tel:011-813-3558(岡田)
paginamaestro@hotmail.com
http://eefj.org
郵便振替(名称) エベネゼル緊急基金
(番号)02710-0-55842

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼル緊急基金の実際的な働き of 名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく 1991 年に 3 人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた 25 カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org